

令和2年度 第1回

社会福祉士養成学科 教育課程編成委員会 報告書

開催日時：令和3月1日（月）15：30～17：00

場所：zoom形式

参加者名

委員	藤井 亘	（東京都自立支援協議会 委員）
委員	小田 智雄	（社会福祉法人やまて福祉会 理事）
委員	佐藤 初美	（NPO法人 10代・20代のにんしん SOS 新宿 理事長）
教員	秋山 雅代	（社会福祉士養成学科 学科長）
教員	片桐 正善	（社会福祉士養成科 科長）
職員	萬崎 保志	（教務課 次長）
職員	板野 弘明	（教務課）
職員	松木 健太	（教務課）

1. 出席者自己紹介

各委員より自己紹介を行なった。

2. 職業教育専門課程の説明と教育課程編成委員会の概要

萬崎より、教育課程編成委員会の規定や概要について説明があった。

<教育課程編成委員会とは>

教育課程編成委員会とは『関連業界、有識者の方々とともに教育改善・開発を行う検討機関』。“共に”というのが大きなポイントになる。

求められる観点としては『業界で必要とされる人材像を念頭に、現在の養成校での教育をどう改善することが業界として望ましいか』が重要。

専門職としての課題や展望を踏まえ、どういった教育をしていくのかを養成校と外部委員で協働し一緒に作っていくことが必要となる。

また、取り組む課題（テーマ）に関しては一過性のものではなく、継続的に取り組み、毎年少しずつでも改善し、実績を作っていくことが求められている。

<設置の背景>

『職業教育の高等教育化』、『社会人の学びの場の整備』という国の教育施策の方針が背景となっている。

また、文科省が認定している『キャリア形成プログラム』の条件の中にも、教育課程編成委員会の設置・運営は必須となっている。

3. 社会福祉士養成学科の学科概要と課題

秋山教員より学生の特徴や学科の取り組みなどの共有が行なわれた。

- ・大卒後の進学として入学する学生が3割、子育て中の方が3割、福祉業界への転職希望者が4割。
- ・メンタルサポートの必要な学生が一定数いる。
- ・新卒で初めての就職となる学生や、就職をしたものの早期退職をした学生もいるため、丁寧な就職・学生支援を行っている。
- ・5～9月までの間に卒業生を含めたゲストスピーカーを招聘し、学生に現場の話を聞ける場を設けている。また、年3回施設見学会を実施するなど、前期のうちから就職のイメージ作りのための取り組みを行っている。

<実習について>

片桐教員より今年度の実習について共有があった。

今年度はコロナウイルスの影響もあり、学外での実習に制限がかかった。そのため、23施設にご協力いただき、学内実習として代替を行った。

23施設という多岐にわたる現場のワーカーさんのお話を聞く機会を設け、学生にも好評であった。3月には学生の実習レポートも出揃う為、委員の先生方にも見て頂きながら、その効果や課題などを今後、検証していきたい。

～委員からの質問～

(藤井) 昼間部、夜間部での情報交換や、学校としてメンタルケアへの方針などあるか。

⇒ (秋山) 昼間部の教員も夜間部の授業を担当し、夜間部の教員も昼間部の授業を担当していることもあってか、ここ数年、両学科の情報の共有は安定してきている印象がある。しかし共有して対策していくというところまではまだ至っていない。

(萬崎) 学校としては相談窓口を設けている。令和2年度から外部カウンセリングサービスも導入。メンタルの問題に関しては、他学科も含めて退学理由の上位を占めており、学校として大きな問題と捉えている。

～委員からのご意見～

- ・卒業後スムーズに社会福祉士として働く上で、業務内容や特徴を伝え、将来のイメージを持たせることが重要。

(佐藤) 社会福祉士を知らないまま入学する学生も増えたとのことなので、社会福祉士がどのような仕事をしているのか、また特徴があるのかを示し大まかなイメージを描かせることが必要。

(小田) 社会人経験の豊富な方が、それまでの自身の経験があるが故に柔軟性がかけてしまったり、新卒者は社会人経験の経験値不足から壁にあたってしまうことがある。そのため、業務や職場へのソフトランディングの為にも、卒業生などのお話から業務理解の時間を設けることは賛成。

- ・卒業後も悩みなどが相談できるコミュニティ作りがあるとよいのではないか。

(佐藤) 就労後の職員の悩みの”行き先(受け止め先)”がない状況もある。

(小田) 特に現在はコロナ禍で通常の談業務が殆ど行えず、特別給付の申請業務に追われて何故この仕事をしているか判らなくなるという状況でもある。卒後、現場での悩みなどを共有できるようなネットワーク作りがあると良い。

～職員から委員への質問～

(松木) 入社後の研修やサポートは決まったものがありますか？

⇒ (小田) 入職後の研修・サポートの一例として、現場では入職後に座学で研修後、その後はOJT。その他、関わっている業務に応じて受けるべき研修などがある。

しかし、研修のアンケートなどから浮かび上がるものとして、職員同士の孤立や研修を通じてのネットワークのありがたみなど、自身の抱える問題点の解決方法に悩む姿もある。その意味で、日福の卒業生のネットワークなど、頼るべき場所があるとまた良い変化が生まれるかもしれない。

4. まとめ

- ・来年度も引き続きコロナウイルスの影響を受けると予測される。そのため、3月の学生レポートを委員の先生方にも見ていただきながら、次年度実習について効果や課題を検討していく。
- ・社会福祉士の業務理解、業界理解を進め、将来のイメージを醸成させていくことが必要。将来を意識できることでより意味のある1年にすることが可能となる。
- ・卒業後、就職先へのソフトランディングに向け、学校として取り組めることを改めて検討していく。
- ・卒業後の学生が気軽に相談できるようなネットワークの必要性。

5. おわりに

- ・令和2年度2回目の委員会を3月25日（金）15:30～行う。
- ・学生の学内実習レポートは集約できしだい、各委員へ共有させていただく。